

令和5年度

# 島田市動物慰霊

～亡くなられたペットを合同で慰霊します～

日時 12月16日(土) 午後2時から

場所 島田市斎場(島田市伊太)

参加 自由(市内外どなたでも)

主催 島田市動物慰霊祭実行委員会

共催 公益社団法人静岡県獣医師会島田支部

協賛等 裏面記載

式次第

開会の辞

主催者挨拶

慰霊の言葉

読経

献花

来賓挨拶

閉会の辞



\* 亡くなられたペットの写真をご持参ください。祭壇に飾ります。

問合せ先

島田市動物慰霊祭実行委員会代表(天野)

0547-32-0021

静岡県獣医師会島田支部代表(小川動物病院)

0547-37-3280

## 挨拶



新型コロナウイルス感染症も本年度 5 月から感染症法における分類が 2 類から 5 類に変更となり、これに伴い従来のコロナ対策が大きく変更となりました。制限されていたイベントやお祭りなどは以前に戻り、マスク着用なども個人判断となり、皆が旅行やイベントなどを自由に楽しめるようになりました。しかしながら、一旦沈静化していた流行も夏以降再び問題となり、さらに、昨年流行を心配されていた季節性インフルエンザが 9 月から流行が始まるなど感染症対策の難しさを感じています。

一方で、ロシアのウクライナ侵攻は 2 年目を迎えた今も続いており、終わる兆しが見えていません。さらに、10 月にはパレスチナとイスラエルの衝突が始まり、多くの子どもを含む一般市民が犠牲となっています。科学技術や経済活動が急速に進む中で、痛ましい戦争が無くならないのはなぜでしょうか。人をひとりでも殺せば殺人罪に問われますが、戦争で民間人を殺しても国家は殺人罪に問われないのはなぜでしょうか。人の命は尊いと教えられます。戦争ではこの尊い命を簡単に奪っていきます。いつも疑問に感じ悩みます。最近では、平和国家と自負していた我が国でも、周辺の有事や軍事費増額などが話題とされています。今一度、命の大切さを考えてみたいと思います。

最近、テレビ等で保護動物を取り扱った番組が人気を博しています。保護動物のこと、譲渡のことなどを広く一般の方々に知っていただくにはとても良い番組だと思っています。ただこの事実が番組の中だけでなく、自分の身近でも日常的に起こっていることを知っていただきたいと思って番組を観ています。多くのボランティアの方々が、保護動物を一頭でも助けたいとの思いで日々活動していることを知っていただきたいと思います。まだまだ野良猫や地域猫の問題など一般市民に理解していただき支援いただきたい課題は山積しています。ペットを可愛い対象とするだけでなく、命ある私たち人間のパートナーと捉え、大切にしていくことが、人とペットとの共生する社会を作ることになると考えます。パートナーを最後まで大切にいくことが必要と思います。

昨年に引き続き、第2回目も島田斎場をお借りして動物合同慰霊祭を開催することとなりました。昨年の第1回目では告知が不十分であったにもかかわらず、多くの方々に参列いただきました。島田斎場で火葬されたペットに限らず、広く市民の皆様が家族の一員として飼われたペットすべてを慰霊させていただきます。在りし日のペットを思い、手を合わせていただければと思います。

最後に、本日、この場にご列席をいただいた市民の皆様方、並びに趣旨に共感し御協賛をいただきました関係者の皆様様に心よりお礼申し上げます。

島田市動物慰霊祭実行委員長 天野 弘

## メッセージ



先日(夜8時頃)西の方角を見ると、赤いハートが山に浮かび上がっているのに気づきました。その美しさから、すぐにネット検索すると、粟ヶ岳の「茶」の文字の近辺で「新型コロナの収束と医療従事者への感謝を込めて」点灯していることが分かりました。コロナ禍後も色々な願いを込めて点灯を続けているのだらうと思いつつ、もう一度眺めると、胸が熱くなりました。素晴らしいイベントです。

さて、家に帰って、テレビを見ると戦争のニュースが普通に流れ、当初受けた衝撃も徐々に薄れ、あきらめに変わってきている自分があります。平和な日本に生まれ暮らしていると、本当の悲惨な状況は想像を絶するものと思われます。戦争の根底にあるものは、宗教とその民族の対立のようですが、そこが私には理解しにくいのです。

私信ですが....、宗教は、崇拝する神様がいて、その神様にお祈りをして、救いを求めたり、幸せになったりするもの....そんなものと思っています。異なった宗教を崇拝する民族どうしが、考え方の違いから戦うのならば、さらに殺し合いまで起こるなら、神様にお祈りして幸せになることとは真逆のような気がします....。

動物を抱いて、自宅を追われ、隣国に避難する人々の幸運を祈らずにいけません(これも神に手を合わせたくくなります)。

さて、島田市動物慰霊祭の目的は、亡くなった動物たちに、感謝の気持ち(一緒に暮らしていたときに、我々を幸せにしてくれた事に...)をこめて、祈りを捧げるものですから、どんな宗派であるかは全く関係ありません。生前の動物達は、私たちの心のよりどころだったりします。悲しい時に慰めてくれたり(時には涙を舐めてくれたり...)、嬉しい時は一緒に喜んだり、イライラしている時には、飼主から離れてじっとしていたり。誰にも言えない話相手になってくれたり。そう、どれだけ、あの子たちに救われたか...そんな方も多いのではないのでしょうか。

亡くなった動物達を思うと、笑顔になることが多いのは、そんな色々な場面が、私たちにとって、とても貴重で幸せな時間だったからでしょう。

John Lennon の反戦運動(Love&Peace)は有名ですが、世界平和や戦争反対を願ったストレートな曲も幾つかあります。「God」という曲では、宗教や占いを痛烈に批判するとともに、王様、Elvis(プレスリー)..さらには Beatles までも信じないと歌っています。戦争被害者である民間人(幼い子供達を含む)は、何を信じて良いか....親、兄弟以外は信じられない状況かもしれません。

平和な日本に生まれ、動物たちと幸せに暮らせたことに感謝して、亡くなった動物たちに手を合わせたいと思います。さらに、今まで以上に戦争の無い世界を願わずにはいられません。